

- コース距離：12.3km
- 歩行時間：4.0時間

- 1 御嶽駅
↓0.5km
- 2 御岳渓谷遊歩道
↓1.5km
- 3 楓橋
↓0.3km
- 4 寒山寺
↓0.3km
- 5 櫛かんざし美術館
↓2.0km
- 6 吉川英治記念館
↓3.2km
- 7 明白院
↓0.3km
- 8 和田乃神社
↓1.6km
- 9 金剛寺
↓1.5km
- 10 昭和レトロ商品博物館
↓0.1km
- 11 昭和幻灯館
↓0.2km
- 12 住吉神社
↓0.8km
- 13 青梅駅



12 住吉神社

応安2年(1369)延命寺の開山・季龍和尚が住吉大社を勧請し、伽藍鎮守として奉斎したことが始まり。戦国時代の永承10年(1513)領主の三田氏宗・政定父子が拝殿を再建、種々の神宝を奉納して青梅村の総鎮守とした。江戸時代に造営された本殿・幣殿・拝殿が一体として残り、多くの彫刻に囲まれた拝殿天井には江戸後期の青梅の文人小林天淵の雲龍図、境内には筆塚など青梅ゆかりの文人達の作品が多く残されている。



11 昭和幻灯館

昭和レトロ商品博物館の姉妹館的存在。現在は墨絵作家の有田ひろみさんとぬいぐるみ作家の有田ちゃぼさんの猫をモチーフにした常設展を見ることができる。

9 金剛寺

平将門が承平年間に創建したと伝わる真言宗の古刹。境内には平将門が願いを託して庭に植えたとされる誓いの梅がある。この梅の木は熟しても黄色くならず、実が落ちるまで青いことから、青梅(あおうめ)と名付けられ、青梅市という地名の由来になったといわれている。また、如意輪観音像(重要文化財)、四脚門の表門などの文化財もある。

8 和田乃神社

青梅市日向和田にある神社で地区の総鎮守。創建時は和田明神と称していたが慶長3(1598)年日向和田村と日影和田村に分村した際に三島明神と改称した。さらに明治維新によって現在の和田乃神社と改名した。境内には大正2(1913)年に当時皇太子だった昭和天皇が当地見学の折にお手植えされた枝垂糸杉がある。



7 明白院

青梅七福神の寺院のひとつ。山門が青梅市の重文に指定されており、その隣には市の古木に指定されている「しだれ梅」がある。境内に米俵をかついだ狸の石像があるが、その昔、庫裡の天井裏で狸の屍が見つかった際、その周囲にはたくさんのお米と小さな福祿寿の御像が三体あったので、当時の住職がその三体を祀り、米俵をかついだ狸の石像を建立し供養したといわれる。



10 昭和レトロ商品博物館

青梅駅周辺は昭和の雰囲気味わえる街の造りとなっている。そのひとつが昭和レトロ商品博物館で、建物は大正末期に建てられた木造2階建ての家具店を利用している。1階部分が昭和グッズの展示スペースになっており、懐かしい昭和のお菓子、飲み物、雑貨、文具、薬などの箱や外袋をはじめ、歴代のグリコのおまけや雑誌の付録などがずらりと並んでいる。



5 櫛かんざし美術館

櫛やかんざしなど約4000点を展示する美術館。往時の女性風俗を偲ぶ衣装、身装品、生活用品なども幅広く展示されている。庭園では多摩川の清流を眺めながら四季折々の山野草も楽しむことができる。



6 吉川英治記念館

「宮本武蔵」「三国志」「新平家物語」などの作品で有名な作家吉川英治が昭和19(1944)年に疎開して、しばらく過ごした住居が記念館となっている。今年3月で一度閉館となったが、この9月より青梅市の運営で再開となった。作品や愛用の品、書斎など展示されている。邸内には氏が好きだったという梅の木が残っている。



13 青梅駅

立川駅と奥多摩駅を結ぶJR青梅線の駅。ホームの待合室や地下通路などは昭和の香りが感じられるレトロステーションとなっている。



快汗ウォーキングコース

JR青梅線の御嶽駅から青梅駅まで奥多摩の溪流沿いと街並みを歩く半日コース

青梅駅の地下通路にはレトロな看板が



1 御嶽駅

JR青梅線の青梅駅と終点の奥多摩駅の間地点にあり、御岳山登山、御嶽神社参拝の拠点となる駅。御岳渓谷遊歩道のスタート地点でもある。

2 御岳渓谷遊歩道

御嶽駅から軍畑駅手前までの多摩川沿いの渓谷に作られた遊歩道。美しい渓谷と四季折々の植物を眺めながらのウォーキングが楽しめる。現在、楓橋から軍畑手前までは台風による被害で通行不可となっている。



3 楓橋

沢井駅近くにあり青梅街道と吉野街道をつなぐ橋。車は通れず人だけが通行できる。すぐ近くに地元の小澤酒造が経営する食事や利き酒が楽しめる施設もある。



奥多摩ではラフティングなどのウォータースポーツが楽しめる(楓橋より撮影)。

4 寒山寺

明治18(1885)年に書家の田口米舩が中国の蘇州にある寒山寺より釈迦仏木1体を託され帰国した。その後、昭和5(1930)年にこの地に建立された。鐘つき堂もあり、渓谷を散策する人の多くが立ち寄り、鐘をつく姿が見られる。

